

## 日本の茶道と工芸に宿る霊性

実施日：平成31年1月21日～29日

於：米国（マイアミ）、ブラジル（サンパウロ）

### ■ 派遣専門家



十一代 大樋長左衛門

美術家・陶芸家

石川県金沢市で350年以上の歴史を誇る大樋焼の十一代目。1984年ポストン大学大学院修士課程修了。大樋焼の伝統を継承しながら、陶芸・工芸のみならず、家具や空間のデザインなど活動は国内外で多岐にわたる。作品はデトロイト美術館（米国）、セーブル美術館（フランス）、景德鎮陶壁館（中国）、金沢21世紀美術館（日本）など世界各地に所蔵されている。ロチェスター工科大学客員教授、上海工芸美術学院客員教授。2016年より文化庁長官アドバイザーメンバーも務める。

### ■ 事業概要

#### ● マイアミ



Ceramic League of Miamiでのワークショップ



森上博物館・日本庭園での講演会

#### ● サンパウロ



ジャパン・ハウス サンパウロでの展示会、茶道デモンストレーション



地元陶芸家アトリエでのワークショップ

### ■ 実施結果

十一代大樋長左衛門さんが米国とブラジルを訪問。大樋焼は、手とへらだけで形成する楽焼の手法を用いた茶器です。ワークショップでは、参加者が2日間かけて制作～施釉～窯焚まで作陶の全工程を体験し、最後に個々の完成作品について大樋さんが講評していきました。また、現地裏千家の協力を得ながら実施した茶道のデモンストレーションでは、茶道と工芸との関係性について解説。茶道の世界に初めて触れた参加者の間にも、茶道文化とそこで使われる器の重要性についての理解が広がりました。大樋さんの数日間にわたる日本文化の本質に迫る熱のこもった発信は、マイアミとサンパウロの参加者たちに一様に強い印象を与え、その様子は地元紙やネット・メディアでも取り上げられました。